

第185回 全経簿記検定試験 上級 一工業簿記一

模範解答

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問1 基準操業度 [⑦ 54,000] 時間

問2 変動費率 [⑤ 140] 円/時間 固定費 [⑤326,700] 円

問3 予定配賦率 [⑤ 500] 円/時間

問4 ※解答の最後に別解を掲載

(単位：円)

	No. 1	No. 2	No. 3	No. 1-R	No. 2-2
直接材料費	[②1,440,000]	[420,000]	[1,740,000]	[96,000]	[900,000]
直接労務費	[1,173,000]	[②467,500]	[807,500]	[102,000]	[1,402,500]
製造間接費	[690,000]	[275,000]	[②475,000]	[60,000]	[825,000]
作業屑売却収入	—	—	[Δ 35,000]	—	—
仕損売却収入	—	[Δ 123,650]	—	—	—
仕損費振替	[②258,000]	[Δ1,038,850]	—	[Δ 258,000]	[1,038,850]
合計	[3,561,000]	[② 0]	[2,987,500]	[0]	[4,166,350]

*マイナスには△をつけること。

問5 製造間接費

諸 口 [④ 2,485,900]	予定配賦額 [④ 2,325,000]
予算差異 [—]	予算差異 [208,900]
操業度差異 [④ 48,000]	操業度差異 [—]

予算差異		操業度差異	
製造間接費 [④208,900]	製造間接費 [—]	製造間接費 [—]	製造間接費 [48,000]

問6

アンダーラインごとに③

実際配賦によれば、原価計算期末を過ぎないと実際配賦率が算定できないため、期中に完成した製品の原価が計算できない。また、配賦率を毎回算出しなければならないため、手数を要する。さらに、製造間接費の多くは固定費であるため、操業度の変動によって製品単位原価が変化しやすい。

問題 2

問 1

	等級製品 X	等級製品 Y	等級製品 Z
原 材 料 費	㊦ 630,000 円	532,000 円	227,500 円
加 工 費	492,800 円	㊦ 312,480 円	161,280 円

問 2

等級製品 X の正常減損費 [㊦ 45,600] 円

等級製品 Y の正常減損費 [㊦ 77,800] 円

問 3

等級製品 X の完成品原価 [㊦1,175,040] 円

等級製品 Y の完成品原価 [㊦ 913,800] 円

問 4

	連産品 P	連産品 Q
分離点後実際加工費	㊦ 120,000 円	50,000 円
連結原価配賦額	316,020 円	㊦ 141,980 円
計	436,020 円	191,980 円

問 5

連産品は同一工程において同一原料より同時必然的に派生するため、各連産品が発生させた原価が判明せず、原価発生原因に基づく価値移転計算が行えない。そのため、財務諸表作成の観点から便宜的に負担能力主義による価値回収計算が認められる。㊦

※ 問題 1 問 4 の別解（採点箇所は同じ）

（単位：円）

	No. 1	No. 2	No. 3	No. 1-R	No. 2-2
直接材料費	[㊦1,440,000]	[420,000]	[1,740,000]	[96,000]	[900,000]
直接労務費	[1,173,000]	[㊦ 467,500]	[807,500]	[102,000]	[1,402,500]
製造間接費	[690,000]	[275,000]	[㊦ 475,000]	[60,000]	[825,000]
作業屑売却収入	—	—	[—]	—	—
仕損売却収入	—	[—]	—	—	—
仕損費振替	[㊦ 258,000]	[Δ1,162,500]	—	[Δ 258,000]	[1,162,500]
合 計	[3,561,000]	[㊦ 0]	[3,022,500]	[0]	[4,290,000]